

## 令和4年度 第2回「長野県公共交通活性化協議会諏訪地域部会」

日時 令和4年5月31日(火)

午後 10時30分から正午まで

場所 諏訪合同庁舎 5階 講堂

### 1 開会

### 2 宮原局長あいさつ

諏訪地域振興局長の宮原でございます。

本日は、お忙しい中、第2回「長野県公共交通活性化協議会諏訪地域部会」に御出席いただきありがとうございます。

諏訪地域部会は、1月に第1回を開催し、加藤博和(ひろかず)名古屋大学教授のご講演をご覧いただくとともに、それぞれの立場で抱える課題等についてご発言いただき、認識を共有したうえで、諏訪地域がめざすべき公共交通の将来像などについて取組をスタートさせたところです。

本日は、地域公共交通計画について説明するとともに、委員皆様から幅広くご意見をお聞きするとともに、県で昨年度実施しました調査等を踏まえた幹線公共交通ネットワークの在り方、今年度県全体で取り組んでいる公共交通のオープンデータ化について説明する予定です。当諏訪地域の公共交通の維持・発展に向けて、様々なお立場の委員にご出席いただいているが、それぞれのお立場から忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げ、冒頭のあいさつとさせていただきます。

### 3 会議事項

#### (1) 地域公共交通計画について(資料1)

長野県交通政策課 石坂課長

#### (2) 意見交換

【国土交通省北陸信越運輸局長野支局 高澤委員】

輸送資源(福祉輸送、観光客の移動手段含め)について、幹線計画と合わせてフィーダーも重要になってくるのでそちらも併せて検討していきたい。サービス水準については、事業の継続性を考えると、利用者にとって運賃は安価が望ましい一方で、経費等の財政負担を加味して日ごろから事業者や利用者との連携・コミュニケーションが必要になる。また、輸送手段の活用について、法律や制度面でネックになっているものがあれば要望をあげていた

できれば対応を検討したいと考えているので相談してほしい。

**【岡谷市 今井委員】**

公共交通については、インフラの一つとして生活の移動手段として非常に重要。交通弱者がいる以上維持していききたい。自家用車との関係も含めて考えていく。サービス水準については、コストとのバランスが必要。市民の要望のみを聞いてしまうと増便やバス停増などコスト増になる一方なので、最適化の判断が難しいが、水準を落とさず維持していききたい。自治体と交通事業者との役割分担について、交通事業者が運営できるような体制を自治体が支援することが大切。最近では運転手の高齢化、運転手不足への対応について検討していく必要がある。自動運転という話もあるが、すぐにといいわけにもいかないのだから検討していききたい。

**【諏訪市 藤森委員】**

通勤、通学、通院など目的のための手段が公共交通。また、諏訪市は観光客も多いので観光客の二次交通という側面もある。環境についてもゼロカーボン等も言われているので環境対策にもなると考えている。サービス水準については、路線拡充等はしてきたが、逆に乗車時間が増えて利用者が減った例もあるので、常に最適化を検討していかないといけないと感じる。料金は安価で提供できている。役割分担については、交通事業者のプロの目線を参考にし、意見交換をしながら検討をしていく。また、公共交通事業者以外にもデマンド交通のシステム事業者やキャッシュレスに向けた事業者関与も考えられる。

**【茅野市 小池委員】**

公共交通は、地域住民の移動の確保・人の交流の活性化（人流）・環境に配慮した配備が必要になってくる。サービス水準については、人口減少に伴って影響は出るが市民のニーズに寄り添い行きたいところに適正な金額で行ける環境をつくる必要がある。役割分担については、交通事業者との連携が第一だがM a a s を考えていく中では観光や生活サービスなどその他の事業者との連携も将来的には出てくるのではないかと考えている。

**【下諏訪町 小松係長】（代理出席）**

バス事業については、高齢者・高校生・通勤者などに応じて検討している。観光客についても拠点間の移動手段を今後検討が必要ではないかと考えている。行政のなかでも担当部署がバラバラになっているのでまずは横の連携が必要ではないかと考えている。便数やダイヤについても、検討委員会のなかで検討していききたいと考えている。

**【富士見町 植松委員】**

産業課が公共交通を担当している。細かい内容は担当から話をしてもらうが、県の諏訪地域の取り組みのなかで、リニアの新山梨駅との連携を盛り込んでほしい。

小川係長)

公共交通については、将来利用者になる現役世代に対しても興味を持ってもらう取り組みを考えていきたい。サービス水準については、まだ不十分であると認識している。利用者の減少、バラバラの交通インフラをどう束ねるかという課題を感じている。役割分担については、それぞれの立場で意見交換をして考えていきたい。

【原村 清水係長】(代理出席)

今年度から商工観光課田舎暮らし推進係で担当することになった。公共交通については、高齢者がメインの利用者であるが、定時定路線だけだと対応できない移住者に対しても要望を聞いて対応していきたい。サービス水準については、コストとのバランスが難しい。利用者の増加をどう図っていくかも検討したい。役割分担については、それぞれの立場で思いが違うので意見交換をしながら進めていきたいと考えている。

【私鉄県連交通政策委員 (アルピコ労働組合諏訪バス支部) 濱委員】

路線バスがあるから県外からの移住をしてきたり郊外に戸建てで住んでいる方がいるので将来的にそういった方たちのためにも維持して行ってほしい。長期的なまちづくりの観点から路線を作って行ってほしい。ICカードの導入も検討が必要。資金面で厳しい部分はあるが、コロナの感染予防という観点からも考えてほしい。乗務員不足が問題になっている。ここ数年でも相当数の方が退職してしまい、増発・増便が厳しい。そういったなかで女性の活躍を期待しているが、長時間・低賃金の環境で働きにくい状況がある。働き方を考えて対応していきたいと考えている。

【諏訪地区タクシー乗務員連絡協議会 河村委員】 ⇒ 欠席

【諏訪交通(株) 山谷委員】

営業基盤＝交通弱者の移動のサポート、ビジネス客、観光客への二次交通の確保だと自覚し、遅滞なく供給していくことが我々にできることではないか。一方、人材について不足しており喫緊の課題になっている。持続可能な収入の確保が求められる。AIデマンドに期待が高まっているが、労働集約産業であるこの業界では車と人がどうしても欠かせない。AIを導入してもそう簡単に人件費が下がるわけではない。かつては規制が厳しい業界であったが、最近法整備が進んでおり大変やりやすい環境になってきた。タクシーが公共交通の仲間入りをしたので、今後も公共交通として動けるように行政と連携していきたい。

【アルピコ交通(株)中南信支社茅野営業所 斎藤委員】

バスでの輸送がメインであり、公共交通の役割を果たしてきたと考えているが、ニーズ対応については十分とは思っていない。インバウンドを含めた観光客への対応を考えていく必

要がある。人材不足が顕著であり、コロナ前の状況にできるかといわれると考えにくいので、限られた資源をどこに集中させるかを考えないといけない（より収益性の高いところに投下したい）。利用者が減り、減便と値上げの負のスパイラルでやってきてしまっているので、ICカードやバスロケーションシステムを活用しながらサービス水準向上に努める。路線維持のため行政のサポートは不可欠であるが、自助努力も忘れず、交通事業者以外の事業者との連携も視野に入れたい。

**【ジェイアールバス関東(株)諏訪支店 吉田課長】（代理出席）**

コロナの影響で乗車客は減ってしまっている。そんな環境下ではあるが、改めてチャレンジしていく経営方針。バスで輸送できるところとそうでないところ、学生と高齢者など分けて考えていく。大きいバス、小さいバスなども使い分ける。今後、交通事業者として今の運賃のままでいいのかと感じる。高齢者のためにもキャッシュレスの導入も必要ではと感じる民間企業という立場なのである程度収益をもらえるところはいただいてもいいのかなと考えている。

**【アルピコタクシー(株)諏訪支社 矢島委員】**

人口減少によってバスの役割が減っているなかで、タクシー事業者とのすみわけはどう考えているのか。バスでは対応できない個人単位のタクシー輸送が大人数を輸送できるバス事業と同じ運賃では難しいのではないのかと感じる。すべての方への対応は費用が伴うので、ある程度の基準を設ける必要があるのではないのか。

**【茅野バス観光(株) 小池部会員】**

定時定路線は減少しているが、オンデマンドは増加傾向。高齢者の方も仕組みに対応していただいているし、別荘に住んでいる東京の方の利用も増えている。茅野市の「のらぎあ」も始まる。60～70代はほとんどスマホを持っているので、予約作業や決済もスムーズになると大いに期待している。観光客にとっても自分のスケジュールに合わせてつかえるというのはとても便利に感じるのではないか。乗る場所や路線も臨機応変に検討して、通学にも活用してもらいたい。通学支援については路線と時間を見直したら利用者が増えたと実感しているので、対応を考えてより多くの方に使ってもらえるようにしたい。高齢化したドライバーをコミュニティバスで雇用して活躍してもらいたい。特に女性はコミュニティバスにマッチすると感じるので開拓したい。

**【(有)中央グリーン観光バス 真道委員】**

デマンドバスを運行しているが、富士見町でのニーズにはこたえられているとかんじているが、逆に高齢者以外の利用が少ないと感じる。（観光客等）他の地域と接続して、幅広く

足につかえるように考えたい。関係する事業者や自治体と深い関係を築きながら発展していきたい。

**【東日本旅客鉄道(株)上諏訪駅 小林委員】**

安全に配慮し、安心な輸送を心掛けている。幅広い年代の方にサービスを利用していただいている。観光やビジネスの方に対してM a a sを検討し、Suica、チケットレスサービスの提供を開始。鉄道サービス、生活サービス、M a a s・Suicaサービスを展開している。公共交通として、駅からの発信を様々な場面で作り上げていく。ダイヤ改正等、行政への報告や関係団体に対しても施策の説明をさせていただいてる。

**【諏訪ブロック社会福祉協議会（岡谷市社会福祉協議会） 河西委員】**

利用者代表ということで地域住民の視点で発言をしたい。公共交通で支える暮らしについて、安心して暮らせるインフラであるので、安定した機能維持をお願いしたい。サービス水準については、自家用車の移動が大多数のこの地域において、公共交通を利用する場面や日常的に利用している方は限定的であると思う。何をもって最適と位置付けるのかは非常に難しい。以前、通院に使っていた一人の高齢者からバス停を少し移動しただけで大きなクレームになったこともある。大多数ではなく、限定的な方でもそういったことになるので難しい議論だと感じる。役割分担については、社協の役割として自分らしく暮らす、社会参加、人生 100 年を支える環境整備など地域共生社会の実現に向けた各活動を支援しているが、公共交通もその一環であると思う。各省庁や部署から様々な課題等が次々に投げかけられて住民は困惑しているので、公共交通も含めて地域の在り方をパッケージにできるような議論をするために住民参加を促せる仕掛けにできればよいと思う。

**【公立諏訪東京理科大学 教授 飯田委員】**

私の参加意義としては大学教授として、また広い知見を期待されてのことだと感じている。教員としては、学生の意見では公共交通を使うとリンクが悪い・途中までしか行けないという不都合がある。学生にはいろいろなところを見に行ってもらいたい。80%の学生は家と大学しか行っていない。八ヶ岳に連れて行ったらこんなところがあったのかという声があがる。こういった場所に行ける公共交通があると安心感がある。授業後に学生がどこかに出かけようとすると言いはいいが帰りに困るという事態に陥るため、出かけた学生が帰路に困らないような体制があるとよいのではと感じる。交通計画についてはそもそもどのくらいの利用者数を期待した計画なのか、それに見合ったパイがあるのか、もしくは新規利用者を今後開拓しないといけないのか。人口ピラミッドを見ると、諏訪圏域は10～15年後には80～90代の女性が大半を占めることが予想されているので、現段階からそういったところを先取りしながら体制を作っていけばどうか。また、渋滞を緩和できる形を検討できるように公共交通を利用できればよいのではと感じる。

(3) 幹線公共交通ネットワークの構築について(資料1)

長野県交通政策課 石坂課長

(特非) SCOP 北村様

【岡谷市 今井委員より】

幹線系統の評価の考え方について、県は通院・通学を優先するという話であるのでそれに沿った路線の評価をもっとあげていいと思う。1番点数が高いのが白樺湖・車山方面の路線になっているが、これは観光客の影響ではないのか。実態とかけ離れていると感じるので、必要に応じて修正していただきたい。

(4) M a a s の基盤づくりに向けた取り組みについて(資料1)

長野県交通政策課 石坂課長

5

閉会